

時局日誌 (四)

T H 生

十一月三日 山西の敵が最後の運命を賭け

た忻口鎮は此朝零時遂に陥落した、去月

十三日我が軍が攻撃を開始して以來、共

産軍まで混へた十數萬の敵防禦陣と言語

に絶する惡戰苦闘を續けて來たが、二日

夜に至り和田工兵部隊の大爆破作業と同

時に總突進を行ひ、ために敵は全線に互

り退却を開始し次で忻口鎮一帶の山岳陣

地は我が軍の手に歸するに至つた、京漢

線豐樂鎮附近に今午後敵機五機が現はれ

て我軍襲撃を試み漳河鐵橋にも爆弾を投

下した我が防空陣の反撃に遭ひはふく

の體で姿を消した。

我が空襲部隊は今朝山東省の要地濟寧に

ある敵飛行場を爆撃して多大の効果をあ

げた。

上海方面の敵前にて佳節を迎へた第一線

では或は實彈の百一發の皇禮砲を以て、

或は塹壕中に戰闘體勢のまま冷酒を酌み

交はして奉祝した、臨坂、下枝の殘部も一

日を以て蘇州クリーク渡河を完了した。

十一月四日 ブラッセルに九國會議開かれ

ても日支兩軍の戰闘は知らぬ顔に四日も

北に南に激烈に續けられたが殊に山西に

おける我軍の活躍は目醒しいものだつ

た、忻口鎮占領の餘勢を以て南へ南へと

急追を續ける我が部隊、快足部隊は三日

夕方忻縣の占領を完了し快速組は四日更

に順風に帆を上げて進み午後五時頃には太原までに残された要害地關城鎮をも突破し一部はなほも前進して太原盆地へと進入した、京漢戰線漳河附近で暫く對峙を續けてゐた前線部隊は四日朝より行動を開始し彰徳の敵に向ひ間もなくその停車場を占領した、彰徳本陣の敵は三日以來續々退却中である。

上海方面の臨坂部隊は夕刻に至りその前線の八字橋陣地を占領した、又同時刻〇〇隊も之に隣れる屈家橋の敵陣を陥れた一方リンカーン路方面の戰闘も引續き激烈を極めてゐて我が〇〇隊も砲兵隊も空軍も歩兵部隊と協力してこの陣地の頑敵

にたかつていぢめ抜いた、この日海軍航空陣はなほ浦東側より我方に對し惡戯を繰返す敵に對し猛撃を與へた。

十一月五日 山西戰線同蒲鐵道の大手筋からの我が部隊は關城鎮、大孟鎮の占領に續いては昨日は青龍鎮から皇后園、それから新店村と進み、その快足先鋒部隊は遂に太原城北門に到達した、正太線の擲手軍は一昨夜右兩鐵道の接續點榆次を占據して敵の南方への退路を遮斷してしまつた。

京漢戰線漳河附近にあつた我が先頭部隊が諸準備整ひ四日より彰徳の攻撃を開始して忽ちその停車場を占領したとのニュースに追つかけて彰徳占領した。

上海方面の蘇州河を渡つた脇坂、下枝部隊は四日夜までに河岸附近の八字橋（南北の八字橋とは同名異地）その他の重要陣地を占領したところ、塹壕陣を構へてゐる敵は同夜八字橋一帶奪回のため大逆襲

に出て來たが型の如く撃退された。

尙四日浙江省温州附近の玉環島に我が海軍陸戰隊が上陸して同島を確保した。

十一月六日 我が陸軍部隊は五日突如杭州灣の北岸に姿を現した、即ち同日未明海軍の切實な協力の下に上陸、折柄襲來の濃霧は却て天與の煙幕となつて大成功裡に敵前上陸を終り附近の敵を撃破しつゝ陣形を擴大し六日朝には北進の一部は早くも松江南方の黃浦江岸まで進出した、南部戰線、無數の増援隊を以て固めに固めた蘇州河南岸の敵も弱り體當り兵法を以て勇敢に進む我が各部隊の攻撃は益々急となり恰士部隊等は五日申新紡績附近の陣地郁家宅を奪取し富士井部隊は六日蘇州河岸の最要陣地の一である屈家橋に對し攻撃を開始してその一部を打破し田上部隊の先鋒は今午後渡河地點西方の薛家墅を占領した。

此日早くも太原城北門近くまで押寄せた

わが攻略軍の先陣の内小堀部隊は昨朝九時いよゝ北門を占領するに至つた、その時既にわが粟飯原、大場、長谷川等の諸軍勢は旗をなびかせつゝ城門近く攻め寄せたが良民の犠牲を避けたい慈悲心から城内の敵に對し我が軍門に降ることを求めてゐる、南から寄せてゐる小林部隊も昨朝太原を距る三里の小店鎮に進入して敵の退路を斷ち切り我が飛行隊は太原飛行場に着陸するなど太原の鼎の輕重が問はれて敵は萬事休するに至つた。

十一月七日 事變以來長い間江上のわが軍艦、虹口の居留民を惱まして來た黃浦江對岸浦東の敵は六日夜より密に撤退を開始して上海の西南閩江方面へ向つてゐるわが大兵團が五日未明杭州灣の浙江省境に近い金山衛附近一帯に突如として現れたため敵は折角苦心して築いた堅壘を捨てゝ大退却を續けて居り我が軍は之を追撃しつゝ極めて好調子に前進を續く六日

朝には黃浦江岸に達し更に一部は松江南方の米市渡より江を渡るといふ急進振りて七日も後續部隊が猛雨を冒して續々渡江し松江方面に向ひつゝある、頑強に抵抗する敵が穴掘に多忙であれば我が方も屢々土龍戰術を以て應じてゐる、富士井部隊は七日朝に至り遂に蘇州南岸の屈強の敵陣屈家橋を攻略し得たのである。

太原を三方より取巻いた我が軍は城内の敵に降伏を勧告したが、敵は一向應ずる模様にく益々戰備を整へてゐるのでやむなく七日正午飛行機で第三國人及び非戰鬥員に八日午前八時までに立退きを勧告すると共にいよゝゝ武力解決のためわが包圍軍は各城門近く進んでひし／＼と迫り行くのである。

十一月八日 上海方面における敵の二回目大退却がそれだ、六日より開始された最前線浦東よりの退却に續いて上海市及び之に連なる龍華附近の大部隊の敵は八

日より退却を開始してゐる、更に之に連らなる蘇州河南岸の諸部隊も動く氣配だ上海西部の豐田紡附近一帯に蟠居して抵抗し續けて來た大部の敵は西方へ退却を開始した杭州灣上陸後松江を攻撃すべく北に向ふ部隊は黃浦江を渡り金山を占領し忽ち滬杭甬鐵道に達して八日午前松江の西方で之を一刀兩斷し返す刃で松江の一角を芻落してしまつた。

海軍航空隊、陸軍飛行隊はこの日未明より飛び出し協力して杭州、蘇州常州一帯の敵情の偵察と共に上海戦線に近き崑山嘉興、青浦、蘇州等の敵及び敵物に終日大爆撃を加へ、滬杭線は嘉興附近で破壊して後方聯絡を斷つた。

我が太原包圍軍はいよゝゝ所定の時間が來たので今朝七時より一齊に總攻撃の火蓋を切つた、諸砲兵隊はすつかり照準を合せての攻城戦として忽ち北門附近の城壁を打碎いて突撃路を作つた、續いて二つ

三つ、攻撃中の諸部隊の内大場、菴島兩部隊先づ飛び入り日章旗を掲げると共に城内の敵と大肉彈戰を演じ、續いて粟飯原部隊等も突入し、後藤、猪鹿倉、堤各部隊も西北部に突入して頑強に抵抗する敵と激戦中である。

十一月九日 日本間、獨逸國間に締結せられたる共產「インターナショナル」に對する協定への伊太利國參加議定書公布

我が軍の急壓迫により六日夜以來第二の突出戦線の總退却を始めた敵軍は最前線の浦東から次第に南市、龍華と放棄して西方へ向つたので我が軍之に乗じて八日夕刻より一齊に追撃戦に移つたが、九日拂曉よりは蘇州河南岸一帯の敵も退却を開始した、當面の我が各部隊はソレツとばかりに衝いて出で、陸海空軍及び砲兵は總出で退敵を砲撃し徒歩部隊は殆ど無人の境を行く如く例の虹橋飛行場を始め順々に各陣地を陥れ忽ち蘇州河南岸一

帯は勿論その南方の溥滙塘クリークを越えて江橋鎮、七寶鎮等の大鎮を占め續いて龍華に入つてその司令部に日章旗を掲げ遂に我が軍は上海南市に進入せんとして既に大上海市は悉く我が實力下に歸するに至つた。

南翔戦線方面にあつては和知、淺間部隊は一昨夜より昨日にかけて江橋を完全に奪取し續いていよいよ南翔の本攻撃に入つた。

太原は永く歴史に残るべき特異の攻防戦を経て遂に九日午前八時半我が軍の占領するところとなつた、肉弾相搏つ深刻なる市街戦を行ふこと實に二十五時間にして山西生拔きの敵兵を撃滅し各城門高く日章旗を懸へした。

十一月十日 國家總動員實施に關する件内閣訓令(第四號)發布

◎内閣訓令第四號

各官廳

國家總動員實施ニ關スル件

惟フニ今次事變ハ、其ノ淵源スル所極メテ遠ク且深シ。其ノ禍根ヲ芟除シ、以テ帝國不動ノ國是タル東亞永遠ノ平和ノ確立ヲ期スルガ爲ニハ、外ニ膺懲ノ軍ヲ進メ彼ノ暴戾ナル軍閥政權ノ徹底的反省ヲ促ガスト共ニ、内ニ在リテハ國家總動員ノ體制ヲ整備シ、軍需ノ充足及國民生活ノ確保ヲ圖リ、以テ舉國其ノ成果ヲ收ムルニ全力ヲ注ガザルベカラズ。即ち愈々國民精神ヲ昂揚シテ國力發達ノ源泉ヲ振作スルト共ニ、生産力ノ擴充需給ノ調節、配給ノ適正、國際收支ノ均衡ヲ圖リ、依テ以テ綜合國力ノ擴充運用ニ遺算ナキヲ期スルハ、刻下焦眉ノ急務タリ。

政府ガ、今回企畫廳及資源局ヲ統合シテ企畫院ヲ設置シ、國家總動員ノ中樞機關ヲラシメ以テ當面ノ事變ニ對處スルト共ニ、事變後ニ於ケル國力ノ飛躍増進ニ備ヘントスル所以ノモノ亦一ニ茲ニ存ス。

局ニ當ル者、克ク此ノ趣旨ヲ體シ、各々其ノ職司ニ從ヒ和衷協力職務ニ精勵シテ國家總動員ノ完璧ヲ期スベシ。

昭和十二年十一月十日

内閣總理大臣 公爵 近衛文麿

上海方面、南市攻撃、支那軍の上海附近より撤退後大上海は我が軍の實力下に入つたがたゞ南市に若干の敵軍が殘留し平和裡の城明渡しを要求せるわが包圍軍に對し飽くまで死守を叫んで抵抗するにより已むなく之を攻略することとなり十日正午までに非戦闘員の避難を通告したうへ午後三時半よりいよいよ攻撃を開始し海軍機は大舉して南市の上空に至り高昌廟を始め敵根據地の爆撃を行ひ午後四時頃敵兵の立て籠る大倉庫を爆砕した、重砲隊も巨砲を放つて敵兵の籠城する建物を破壊してかかり又地上部隊は日暉港クリークの前線の敵に對して改めて攻撃をとるに至つた。

滬杭戦線、一昨日松江を占領した新上陸兵團の一部は滬杭線路から離れて蘇州河岸を指して北進し昨朝早くも青浦近くに達した、一方滬杭鐵道線路に沿うて浙江省へ進撃せる部隊の先鋒は今年後嘉善を占領するに至つた。

同蒲線に沿うて山西の平野を南進中のわが各部隊は祁縣占領に次で同日夕刻平遙の縣城を占領した、一方長谷川快尼部隊も一昨夕太原西南の清源を占領した、太原城を攻略せる榮光の各部隊は昨日〇〇部隊長を迎へて晴れの入城式を挙げた。

十一月十一日 松井上海陸軍司令官はアメリカ、イギリス、フランス、イタリー、ドイツ七通信社特派員と甫めて會見し一問一答を試みられた。

十一日はいよいよ我が歩兵部隊が南市に進撃を開始したが忽ち一日にして全地區の大半を席卷してしまつた、各部隊は地方法院、南停車場、大同大學、上海兵器

廠其他を占領しつゝ舊城内へと進んで行つた。

津田陸軍部隊、安田陸戦隊及び佐藤聯合陸戦隊は今曉黃浦江を渡つて突如浦東に上陸し殘敵の掃蕩を開始したが、陸戦隊は午後一時頃には早くも南市對岸の招商局汽船碼頭を占領した。

南翔の外廓江橋鎮占領後の和知、淺間部隊は續いて〇〇部隊と協力して南翔を攻撃中であるが和知部隊は十一日午後七時頃京滬線の南翔驛を占領して高く日章旗を揚げた。

松江より北して前日既に青浦に迫つてゐた杭州灣上陸部隊の先頭部隊は十一日早朝同縣城を占領した、然も更に北へ急進して午後四時頃蘇州河に程近い白鶴港の要鎮を占領した。

我が渡洋海軍機は南京及びその北方の滁州に飛行場その他の軍事施設を襲撃した又他の一隊は北支戦線における敵の空軍

本據地河南の洛陽を大舉空襲して格納庫及び在場の十機を破壊し去つた、敵三機と遭遇した海軍機は直に空中戦を交へて内二機を海中へ射落した、海軍機は又陸軍部隊と直接協力して嘉興、嘉善、蘇州等の最前線方面に爆弾をバラ撒いた、陸軍機は殆ど全力をあげて戦場を翔廻り殊に南市、浦東の掃蕩工作に活躍した。

十一月十二日 天皇陛下に於かせられては北支及内蒙方面に作戦中の陸軍將兵に對し今十二日午前十一時參謀總長宮殿下を召させられ優渥なる勅語を下賜あらせられたり

勅語

北支及内蒙方面ニ作戦セル軍ノ將兵ハ峻ヲ度リ瀏濼ヲ蹈ミ克ク異域ノ野ヲ征キテ困苦ト缺乏トニ堪ヘ長驅霆馳向フ所敵陣を撃碎シ皇威ヲ中外ニ宣揚セリ朕深ク其忠烈ヲ佳尚ス思ウテ敵丸ニ墜レ病瘴ニ罹レタル者ニ及ヘハ寔ニ忉忉ニ勝ヘス

惟フニ派兵ノ目的ヲ達シ東洋長久ノ平和ヲ確立セムコト前程尙遠ナリ爾等益々志氣ヲ淬厲シ艱難ヲ克服シ以テ朕ノ信倚ニ副ハムコトヲ期セヨ

川並、鷹森兩部隊が引續き早朝より舊城内を進占して僅に残る敵の掃蕩を行つた其結果悉く我が占領するところとなり、茲に租界を取巻く大上涌市は完全に我が軍の下に服するに至つたのである、この日南市前面の黃浦江上の障礙物は我が海軍の手によつて取除かれ航行は自由となつた。

和知部隊によつて南翔驛を撃はれてより愈々我が包圍軍の攻撃急となり終夜攻め立てられた南翔の敵は遂に支へ切れず太倉、崑山方面へ總退却となりさしもの堅壘も我が安達部隊の占領する所となつた松江―青浦―白鶴港として蘇州河を渡つた杭州灣上陸組は驚くべき神速を以て一昨夕北岸の要津安亭を占領した。

河北省内の京漢、津浦兩線の間地帯、殊に京漢線寄りの各地にはなほ殘敵が動いてゐるので兩線の我が部隊は數日前より出動し空軍の協力の下に掃蕩中のところ〇〇部隊は十一日石家莊東方地區の藁城、晉縣、辛集等の掃蕩を終り又〇〇部隊は順德東方の南和、平郷附近を掃除し坂西部隊は十日彰德東方の要衝大名を占領した。

十一月十三日 前日の南翔占領に續いて昨日は嘉定陥落してこゝに上海戦線の南北兩大關は倒れてしまつたのだ。

杭州灣上陸軍の内滬杭甬鐵道に沿うて浙江省に進入せる片岡、小堺等の各部隊は過日來嘉善附近の敵陣地を攻撃中であつたが本日午前十時同地を完全に占領した武定を十二日占領した部隊は南下を續け本日午前遂に黃河の線に達したので、黃河の戦ひはいよいよ切迫して來た。京漢戦線の掃蕩工作は引續き行はれ十三

日は河北省順德東方の沙河鎮を占領した

十一月十四日 我が陸軍大部隊は海軍〇〇戦隊の護衛の下に揚子江を深入し、十三日上海事變の停戰協定線に近い白茆クリーク川口の白茆口付近に於て海軍、空軍等の切實な協力の下に大成功裡に敵前上陸を決行した、直に同クリークに沿うて西南方へ急行の進撃をして今朝早くも支塘鎮を占領しなほも前進中でために太倉崑山の敵は忽ち背後を脅かされどうしても崩れないわけに行かなくなつたのである。一方劉河を定めて南下した部隊、嘉定より出た部隊、それから南翔占領の餘勢をかつて北進し一昨日外岡鎮を陥れて太倉の攻撃に移つた安達、和知の諸部隊等により太倉は昨朝五時半あへなく落城し、安達、和知組は先陣の功を樹てた。杭州灣上陸組の岡本部隊は青浦を占領後進路を西にとつて工兵の助けを得て嚴山湖を渡るなど有名な湖沼地方を多大の勞

苦を以て前進し蘇州と嘉興とを結ぶ新鐵道蘇嘉線に出て十四日早朝その沿線の要區平望鎮を占領した。

十一月十五日 十五日は遂に崑山、常熟が相次いで枕を並べて落ちた、杭州灣上陸軍の岡本、長谷川、竹下の諸部隊は十四日崑山城附近に達していよいよその攻撃が始まつたと見る間に今朝早くも陥落してしまつた、又十三日揚子江岸上陸と共に急進撃を續けた佐藤部隊は今朝九時半常熟に突入してその一角を占領したが續いて永津、高橋の新上陸組も驅けつけて來て雜作なく占領してしまつた、之を以て敵は悉く上海停戰協定線外に退出し上海を中心とする半徑五十キロの地域内では敵影が見られぬことになつた。

杭州灣上陸軍のうち山田、山本兩部隊は浙江省内に進撃して、それ／＼廣陳と乍浦を占領した。

濟南攻略の我が軍は三翼をなして南進し

てゐるが左翼の石田部隊は先づ江岸に達して十三日濟陽を占領し、これに續く諸部隊は十四日臨邑を占領した、右翼の末永部隊は恩縣を攻略後十三日高唐を占領して漸く黄河に近づき、中央の赤柴、福榮部隊は正面の堅陣禹城を避けて迂回しその後に出で昨日晏城を占領して禹城の後方を遮斷して之を孤立せしめてしまつた。

十一月十六日 江浙の野を席卷する我が軍のため蘇州既に危く首都南京も漸く不安が加はつて來たため國民政府は昨日遂に四川省重慶に遷移することに決定した、軍事機關のみ南京に止め行政機關は實業、教育鐵道の各都府は重慶へ、外交、財政、内政の各都府は漢口へ、交通部を長沙へとそれ／＼分散することとなつた。

常熟を占領して更に江陰へ進撃する新上陸部隊は揚子江の重要要塞たる福山に對し江上よりの我が艦の協力を得て十六日

之を占領した。

我が濟南攻略陣は益々多く黄河へと寄せて來る眞先に江岸近く出て來て濟陽を占領した左翼の石田部隊は河に沿うて西進し十五日午後津浦線上の鶴山を占領した黄河の大鐵橋を脚下に置き濟南を眼下に見下す高地で相距ること僅に二里だから確に濟南の戦慄である、又後に續く同部隊の一部は十四日商河を占領し臨邑を占領した沼田部隊は更に一昨夕黄河を距る二里の大莊まで達した、中央の福榮部隊も晏城攻略後更に東南に進んで一昨夕江岸の濟河を占領し加藤部隊は十五日午後禹城驛を占領した。

十一月十七日 大本營令制定(甲號第一號) 大本營令第一條 天皇ノ大勳下ニ最高ノ統帥部ヲ置キ之ヲ大本營ト稱ス大本營ハ戰時又ハ事變ニ際シ必要ニ應ジ之ヲ置ク第二條參謀總長及軍令部總長ハ各其ノ幕僚ニ長トシテ帷幪ノ機務ニ奉仕シ作戰ヲ

參畫シ終局ノ目的ニ稽ヘ陸海兩軍ノ策意協同ヲ圖ルヲ任トス、第三條大本營ノ編制及勤務ハ別ニ之ヲ定ム

我が諸部隊は勇猛果敢に攻撃して逐次蘇州陸地へとデリ押しに押ししてゐる、揚子江岸の新上陸組は既に十五日常熟を占領したやうに傳へられたが、軍發表によれば十八日來新上陸部隊と佐藤、高橋部隊等と協力攻撃中で、又福山要塞の陥落の報も之亦尙早で昨朝來全力を擧げ猛攻中の旨軍當局より發表された。

北支方面、濟南攻略戰、京漢戰の順德東方の中間地區に對し同地方帶を清掃中の我が〇〇部隊は十六日威縣を占領した。
十一月十八日 重慶に遷都と決定した國民政府は十七日林森主席の南京出發と同時に引越しとなつた。しかし實際には武漢が中心で次に長沙に重きをおくので實業部なども重慶におく最初の決定を變更して長沙に移されることになつた。

江浙方面、江蘇戰線揚子江岸の白茆口に上陸した諸部隊は支塘鎮、海李鎮と占領して行つて今では揚子江岸の福山と常熟との中間どこに出て來て昨十七日には謝家橋を占領して兩地の連絡を遮斷した、崑山から蘇州街道を進撃する富士井伊佐等の各部隊は連日の雨を冒し到るところの堅陣によつて抵抗を續ける敵を撃破しつゝ昨朝は崑山より二里半の眞義鎮を占領した、夕刻には更に唯亭鎮を占領した。

十一月十九日 飽くまで南京を防守せんとする支那軍はその第一防禦線として鎮江句容の線を固めるため取つておきの二個師をも南京から繰出してゐるが、十九日新たに南京防衛司令部が設けられて唐生智が司令に任命された。
常熟攻略軍は風雨と戦ひつゝ攻撃を開始し遂に諸部隊の協力を以て本朝常熟を占領するに至つた。

數日來の豪雨の中で嘉興城を東正面（矢崎、山本、山田各部隊）及び西北（片岡野副、小堺、藤山、〇〇部隊）の南方面から猛撃を續けてゐた我が攻略軍は今朝遂に完全に同城を占領した、同時に一隊はその西北方太湖南岸の南潯鎮を占領した、この結果浙江戰線における我が軍は太湖より嘉興を経て海岸の海鹽を結んで確固たる地歩を占むるに至つた。

十一月二十日 優渥なる勅語を賜はる勅語（上海方面陸軍將兵に）
上海方面ニ作戰セル軍ノ將兵ハ克ク海軍ト協力シ障礙ト抵抗トラ擠排シテ敵前上陸ヲ敢行シ交錯セル深濠連續セル堅壘ノ間ニ勇奮激闘果敢力攻寡兵能ク敵ノ大軍ヲ擊碎シ以テ皇威ヲ中外ニ宣揚セリ朕深ク其ノ忠烈ヲ嘉ニス其ノ敵彈ニ蹙レ病瘴ニ仆レタル者ニ思ヒ及ヘハ憫愴殊ニ深シ惟フニ派兵ノ目的ヲ達シ東洋長久ノ平和ヲ確立セムコト前途尙遙遠ナリ爾等益々

士氣ヲ浮厲シ艱難ヲ克服シ以テ朕ノ信倚ニ對ヘヨ

二十日午後二時卅分軍令部總長殿下を召させられ聯合艦隊司令長官及び支那方面艦隊司令長官に對し各左の勅語を賜りたり

勅語（聯合艦隊司令長官に）

聯合艦隊ハ久シキニ互リテ艱難ヲ凌キ制海ノ實權ヲ掌握シテ敵ノ交通ヲ遮斷シ克ク陸軍ト策應シテ敵軍ヲ擊碎シ皇威ヲ中外ニ宣揚セリ朕深ク其ノ忠烈ヲ嘉ミス爾等益々奮勵ヲ加ヘ以テ朕ノ信倚ニ副ハムコトヲ期セヨ

勅語（支那方面艦隊司令長官に）

支那方面艦隊ハ堅忍力闘事變發生ノ際ニ善處シ克ク陸軍ト協力シテ上海方面ニ敵軍ヲ擊碎シ或ハ長驅敵ノ要地ヲ衝キテ其ノ航空機ヲ殲滅シ其ノ諸陣營ヲ毀碎シ或ハ支那沿海ヲ掣壓シテ敵ノ交通ヲ遮斷シ以テ皇軍ノ威武ヲ中外ニ宣揚セリ朕深ク

將兵ノ忠烈ヲ嘉ミス顧ミテ其ノ死傷者ニ及ヘハ寔ニ忉忉ニ勝ヘス惟フニ前途尙遠ナリ爾等益々奮勵ヲ加ヘ以テ戰果ヲ全クセムコトヲ期セヨ

陸海軍將士に對し優渥なる勅語を下賜あらせられ、國民の感激また愈深し、崑山方面より進撃の諸部隊は冷雨降りそぐ中を夜をこめて強行軍をつゞけ昨晩早くも蘇州城外に到着し午前六時半菅原、岩隈等部隊は城内に打入り、城内殘留の敵が我が奇襲に狼狽する内に殆ど我が軍の損害なくして難なく占領し續いて富士井部隊長以下堂々入城城内の掃蕩を終り同九時半〇〇部隊を始め諸部隊は堂々入城した、之を以て上海附近に於ける戰鬪に次ぐ太湖東方の大會戰は終りを告げたのだ、この會戰に於ける敵の損害は十五萬以上と註せらる、長期作戰を覺悟する日本はこの日を以て大本營が、設置された國民政府も同日を以て長期抵抗を理由

として重慶に遷都する旨の宣言を發表した。

十一月二十一日 太湖東方における大戰鬪

所謂湖東會戰は終末を告げて、二十日よりは南京進撃の行進曲に變つて福山、常熟、蘇州の線から一齊に前進を開始したのであるが、その内蘇州より無錫に向つて急迫する我が部隊は同夜早くも蘇州、無錫の間どころの望亭を占領し二十一日は更に連日の慘雨を衝いて進撃を續けて逸早く無錫に迫るに至つた、又常熟からの進撃部隊も敵が退却に當り橋梁を悉く落して行つたので主として水路を利用して次第に無錫に近づいて來た。

太湖の南方を湖邊に沿うて西進する〇〇部隊は去る十九日の南潯占領に次で昨日は要衝湖州を占領した。

昨二十日我が軍及び外交の代表より共同租界、佛租界に對して具體的の申入れをなしたが、その内容は排抗日、赤化行動

の取締、支那政府及び國民黨代表の彈壓等の五項目だが之に對する租界の措置如何は極めて重大な問題である。

京漢線の東部地區の殘敵掃蕩を續けてゐる後藤部隊は二十日東奧地の要都臨清を占領するに至つた。

十一月二十二日 二十日より蘇州、常熟の線から一齊に南京進撃を開始した諸部隊のうち無錫に向つた〇〇、〇〇の兩部隊は昨二十二日早朝より無錫の攻撃を開始して午前十時先づ停車場を占領した。

我が地上部隊の作戦に策應して陸海空軍は二十二日非常な活躍をなした。無錫付近から退却中の敵軍を急追した外常州、丹陽、鎮江から浙江の宣興、杭州あたりの敵軍にまで猛爆を加へたが、この日海軍航空隊〇〇機は今は事實上の要塞都市と化し既に首都でなくなつた南京を始めて空襲のうへ蔣介石降伏勸告書を投下した、又別隊は更にその奥の蕪湖を爆撃し

たが、その際板橋鎮附近を航行中の敵艦を撃沈した、更に最近敵軍の高等司令部の所在地となつてゐる江蘇の溧陽、安徽の廣徳に對しても猛爆を加へた、なほ二十一日海軍機は珍しくも河南は開封南方の奧地にある敵空軍根據地周家口を突如襲うて大一機、小十機を痛めつけた。蒙古聯盟、察哈爾の察南、山西の晋北の新開業の三自治政府が産業、金融、交通等につき協調又は統制をはかつて緊密に提携して行くための統合機關として上記の委員會が二十二日張家口で成立し同時に宣言や協定文を發表した、地味な名前だが極めて重大な意義と使命とを持つものである。

十一月二十三日 江南の戰場すら昨今は漸く寒氣肌に刺すばかりの季節となつて來た、我が將士の苦勞を想ふこと一しは深し、二十三日の我が陸海の荒鷲群は早朝より細雨まじりの寒風を衝いて飛出し無

錫に續く敵の據點常州、江陰に對し巨彈を浴せかけ或ひは西へ走る敵を掃射した又一部は杭州に出て附近の敵陣地を猛爆したなほ二十二日は海軍航空隊がその前に續いて河南周家口にある敵空軍根據地を襲撃して地上に待機中の敵機數十を破壊し更に立向つて來た戦闘機と渡り合つた未數機を撃墜したその中には最新のツヴェト製らしいものがあつたといふ、同日は南京をも前日に引續き空襲して敵戦闘機六機と華々しい空中戦を演じて内三機を墜落した、この日蔣介石は南京市内外の防禦陣地を巡視して將士を激勵したといふ。

上海の新情勢は先づ英國側が折れて出た證左として上海稅關の次席關長として現天津次席の赤谷氏が任命され又國民黨の機關通信中央通信社支社が昨日限り上海から姿を消してしまつた。

十一月二十四日 太湖南岸の要衝湖州は二

十四日岡本、長野、山田諸部隊が城内に殺到して猛烈な市街戦を演じた後遂に完全に我が軍の手に歸することが出来た。

一方湖州南方の金蓋山で上海杭州街道を守る敵を攻撃して浙江戦における最初の山獄戦を演じた末これを確保した。

上海における支那側の諸機關即ち市政府淞滬警備司令部、戒嚴司令部、市黨部等は南市の陥落後もなほ租界内に臨時辦事處を設けてゐたがいづれも相前後して消失せ之等の公務員や抗日分子も續々地方へ立退き、租界内の抗日ポスターや抗日文獻なども見えなくなつた、又中央通信社に續いて時事新報始め二流の抗日新聞五社も昨日を以て停刊してしまひ残る大新聞の調子も餘程穩健に變つて來た。

十一月二十五日 痛烈極まる攻防戦を續けてゐた無錫も二十五日午前十一時遂に陥落した、かくて支那一流の新興都市にして今は廢墟と化した無錫は我が軍の掌中

に入つたのである。

空軍の活躍は目ざましい二十五日も前日に續いて午後から廣東東の石龍を始め例の如く溇漢線の大爆撃を行つた、南京に對しても渡洋部隊によつて空襲は續けられ昨日は大校飛行場を存分に破壊して引揚げた、北支にあつては我が陸軍機は昨朝黃河陣地の中心をなす濟南西方の長清附近を猛襲して軍用船多數を撃破したものである、又敵空軍本據地洛陽を空襲して六機を爆破した。

十一月二十六日 太湖の南岸地方に作戦中の長野、山田、岡本の各部隊は湖州占領の餘勢をかりて二十六日拂曉長興をわけなく占領してしまつた、無錫陥落と併せて太湖の東、南、西の三方は既に我が軍に歸したわけで、長興は南京に通ずる街道筋に當つてゐるので之によつて南京杭州間の連絡を完全に遮斷し得たと同時にいよいよ太湖を廻つて南京防禦の第一線

の句容を威嚇する態勢をなすに至つた。

上海租界内の支那機關の接收は次第に實現されてゐて最も大きな問題であつた。上海税關に就いては先日次府税關長に次で稅收主任をも邦人を任命したが邦人の税關監視も二十六日より久方振りに現場で事務を取るやうになつて上海税關は既に事實上我が軍の監督下に入つた觀がある、又交通部の電報局、國際無電臺、放送局及び郵便局等にも日本側より管理、檢閲官を派遣することとなつたので上海もおひ／＼と明朗化して來た。

十一月二十七日 防衛司令部令（軍令陸第八號）要塞司令部條例中改正（軍令陸第九號）

江浙方面、浙江戦線、太湖西岸の要衝長興を手に收めた我が軍は更に進撃を續けてゐるが長興から二手に岐れ長野、山田組はそれより西して安徽路に向ひ差當り敵空軍基地の廣德を衝かんとしてその中

途にある泗安鎮を占領し遂に安徽省に我が軍靴を印するに至つた。

京漢方面より河南に進出した我が軍が現に占據してゐる同省北部彰德地方の人民は國民黨政府打倒及び共產黨絕對排撃の趣旨を以て河南自治政府を樹立するに至つた、その成立式が二十七日彰德において舉げられ蕭瑞臣がその主席に推されて自治宣言文を發表した。

十一月二十八日 上海戦線は擴大して今では既に江蘇、浙江、安徽の三省に跨がり戦局は南京攻略作戦を中心に動いてゐる京蘇線に沿つて進撃の片桐、大野、野田助川の各部隊は無錫占領後頗る間もなく前進を續ける脇坂、下枝部隊、田代、兩角、添田、倉林の諸部隊は何れも堂々の陣を以て前進に前進を續けて居る二十七日その西北岸の沙塘口に上陸した伊佐富士井部隊一部は背後より宜興を脅かしてゐる。

南京は今や我が軍のために遠巻にされて來たので水路よりの我が軍の進撃を防衛する手段としては南京下流の烏龍山砲臺附近で揚子江を封鎖するに決し二十七日外國側へ通告した又南京の不安増大により南京衛戍司令唐生智は同日同地殘留の外人に對し至急避難方を勸告した。

十一月二十九日 郵便振替貯金規則中改正（逓信省令第九八號）

昨夜來攻撃を續けてゐた千葉、山田部隊は二十九日の拂曉戦にて遂にクリークを突破して南門より突入して市街戦を演じた末同九時完全に占領し太湖を横斷して宜興の背後沙塘口に上陸して宜興攻略に協力した伊佐、富士井部隊も南京へと前進しつゝある二十八日既に片足をかけてゐた常州はプログラム通り二十九日正午に至つて遂に我が大野、助川、野田、片桐、三國今中等の諸豪によつて占領する所となつた二十八日夜既に城外に迫つ

てゐた我軍は午後二時過ぎ、城壁を突破し日章旗は掲げられ同二時半田代、兩角、倉林、添田の各部隊によつて完全に我が軍の手に歸し次で五時頃長江一の同砲臺をも占領してしまつた。

宋子文が上海を脱出したのに次で上海金融界の巨頭錢永銘實業界の大御所王曉籟青帮の親玉杜月笙等も二十八日相率ゐて上海を去つて香港に赴いた、同日中央、中國、交通、農民の國民政府銀行の高級職員七十餘名が既に香港に到着した。

十一月三十日 日本政府のスペイン、フランス政權承認に關し、イタリー政府最高當局は三十日次の如き見解を明にした、「イタリーの滿洲國承認に次ぎ日本がフランス政權を正式に承認するに決定したのは、伊兩國の現實主義外交の勝利を意味する」

浙江の長興から省境を越えて山路を安徽に入り廣徳に迫つた山田、藤山の各部隊

は付近高地からの藤村部隊の掩護砲撃や藤田部隊の戦車の誘導を受けて二十九日午後より廣徳の猛攻撃を開始し夜に入つても進撃を続け同夜これを占領した、我が軍は三十日より三路より追撃をかねて

南京進軍の新スタートを切つた。南京の不安増大と衛戍司令唐生智より避難勧告とにより同地残留の外人は二十九日より揚子江上の各自國の軍艦又はハルク或は大使館その他の安全場所に續々避

難を始めた、昨日午前一時南京鎮江間にある火薬庫の大爆發があつて益々南京の動搖を來してゐる。

冬季雜吟

混題

初聲

巴藤

月に暮れ千鳥に更けて風破
酒の友と語り明かさめ千鳥聴く
猫の子の啼き寄る裾や雪催ひ
講堂の窓明か〜と雪晴るる
陽のあやに雪もつ鉢の並び見
暮れなつむ煤掃の庭月細し
胸上げを逃ぐる女や煤拂ひ
酒は人は愚にして嬉し年忘

新居して梅の遅速にかこち顔
小春日や島は七浦風心地
詩囊乏しきに悔ひなきおれが冬籠
入營の遠征の兄思ふ寒の入
後甲板に下弦の月や千鳥聞く
古渡に傘かたむけて浮寝鳥
初風の湖底に雲の動かざる
初東風や能登の岬に帆の白く